

## 「退職」前後の写真

パソコンのなかに、膨大な写真が保存されている。なかなか整理・編集できないが、たまに懐かしさのあまり、じっと眺めることがある。名古屋市立大「退職」前後の4枚の写真を紹介したい。

最初の2枚は、退職1年前の夏、7月20日午後に名古屋市国際展示場で開催された受験生への「大学案内」。多くのブースが設置され、真剣なまなざしの受験生に「ミニ講義」と大学・学部・学科を紹介。退職前の私が、なぜ担当したのか、いま考えると疑問ではあるが、確か主催者からの「ご指名」によるものと思う。



講義では、東日本大震災と防災・減災まちづくりについて話した。震災被災地の調査などをパワーポイントを使って説明したあと、写真のように愛知県「標高地図」により、東海地方の災害リスクと課題を提起した。受験生の「反応」は良かったと思うが、その「成果」が気になった。

次の写真は2014年3月の「卒業記念パーティ」。卒業式のあとに学生が主催する恒例の行事だ。学科ごとに壇上に上がり、ゼミ生から花束をもらう。私の隣で花束を高く掲げているのが、車いすでパーティに駆けつけた同僚の石川洋明さん。ゼミ生からの花束がよほど嬉しかったようだ。



次の写真は退職後、4月11日に行われた社会調査実習「最終報告会」で開会挨拶をする私。毎年、年度の初めに報告会を行い、次の調査に引き継ぐ。会場は2月22日2時から「最終講義」をした201教室。退職して10日余りで、再びここで学生さんに挨拶させてもらうことになり、張り切って教壇に立った。社会調査実習は現代社会学科の「看板講義」で、学生さんが1年間かけて調査を行い、報告書にまとめるハードな実習である。挨拶のさいごに「後輩の皆さんは、先輩の報告をしっかりと聞いて、これからの調査の参考にしてください。そして、先輩たちの調査を上回る成果をあげてほしいです」と述べた（開会挨拶の原稿から）。



写真下には、石川洋明さんが写っている。私の「最終講義」の時とほぼ同じ場所だ。あの時のように、車いすで真剣にメモをとっている。石川さんは詳細なメモなどにより、学生にかなり厳しいコメントをする。社会学者らしく、調査方法や論理展開に「注文」をつけることが多かった。石川さんは、それから2ヶ月半後に亡くなった。長いあいだ、重い病気に苦しめられた。でも、亡くなる直前まで教育に執念を燃やし続けた。

(2021年6月11日)